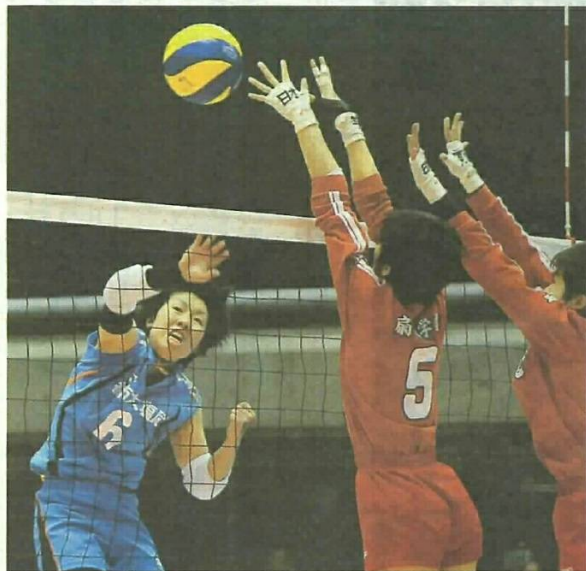


(第3種郵便物認可)

都市大 準決勝で涙

春高バレーで、県勢女子として初の決勝進出を狙った都市大塩尻は、強豪校の東九州龍谷(大分)に1-3で敗れた。最後まで全力プレーを見せた選手に大勢の応援団が拍手を送り、健闘をたたえた。



【都市大塩尻-東九州龍谷】第2セット、アタックを決める都市大塩尻の宮嶋

悔しさ糧に 頂点へ再出発

「日本一」を目指して初のセン
ターコートに臨んだ都市大塩尻
は、昨夏のインターハイ覇者・東
九州龍谷の高い壁に阻まれた。サ
ーブで崩す狙い通りの展開で第1
セットを先取したが、第2セット
以降は王者の力を見せつけられ
た。岡田隆安監督は「横綱にはか
なわなかった。高さがあり、コース
をつくスパイクをブロックで止め
られなかった」と敗因を語った。

精神的支柱のライト牧田春奈主
将(3年)をインフルエンザで欠
いた。それでも「はる(牧田)の
分まで頑張る」と団結した。立ち
上がり重要と捉え、持ち味の粘
り強さを発揮して最高の滑り出し
を見た。

だが、そこらが簡単にはいか
なかった。ミスを恐れてサーブで
攻めきれずに正面をつき、セッター
に良いボールを上げられてしま
う。ブロックが絞られず、セン
ター小林嶺(2年)は「中途半端
になってしまった」と悔やんだ。
逆に都市大塩尻はサーブレシー
ブで崩され、エースの高相みな美
(2年)にボールを集めるしかな
い苦しい展開に。ブロックで狙わ
れ、高相は「マークされていると
きの対応力がなくて悔しい」と涙
を流した。

ク得点を挙げてチームを引っ張っ
たレフト宮嶋望帆(3年)は「1
点取っても盛り上がりにつけ『追
い付くぞ』ってときにミスが出て
しまった」と下を向いた。しか
し、全員で力を出し切った。先月
下旬に左肩を痛め、まだ完治して
いない中で牧田の代わりにライト
で初先発した宮下末菜(同)は
「悔しいけれど、このメンバーで
ここまでこられてみんなに感謝し
たい」と笑顔も見せた。

都市大塩尻の応援席は、当日朝にバス4台で駆け付け
た生徒約160人のほかに、保護者やOB、同じ学校法人
の姉妹校の生徒、選手の出身中学の後輩らも加わって膨
れ上がった。総勢約600人が青いメガホンを打ち鳴らし
ながら大きな声援を送った。

野球部とサッカー部の部員約100人も協力し、それぞ
れが日ごろ歌っている応援歌で選手を後押しした。サッカ
ー部で昨年12月まで主将を務めた天野太一君(18)＝

応援団600人 3位たたえる

3年＝は「全国の重みは自分たちにもよく分かる。心を
一つにして応援したい」と話し、仲間と声を張り上げ
た。

試合は1セットを先取しながら惜しくも敗れたが、応援
団は大きな拍手で選手たちの健闘をたたえた。宮下末
菜選手の父親・宮下一喜さん(49)＝松本市筑摩1＝は
「ここまでよく頑張った。帰ってきたら『お疲れさま』
と言ってあげたい」と話した。昨年のバレー部主将を務



応援席から盛んな声援を送る生徒たち

めた松尾奈津子さん(19)＝都留文科大1年＝はOBの
仲間10人ほどで応援し「ずっと一緒に日本一を取りたい
と言ってきた仲間なので、自分たちのことのようにうれ
しい」と話し、同校初の4強入りを果たした後輩の活躍
を喜んでいた。(小岩井貴之)

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。